とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ゆりぐみ（４歳児）

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然遊び

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

戸外散歩で自然探索をしていると、ダンゴムシを発見する。迷路グッズを出して、観察してみると「ゴールまでみてみたい」との声が多数あった。そこから「飼育してみたい」と意識が変り、図鑑を用意するとダンゴムシへの興味関心が深まり、観察を夢中で楽しんでいる姿がある。

２．活動スケジュール

・戸外遊び（ダンゴ虫がいる付近の広場）でダンゴムシ探し

・朝やお迎えまでの自由遊び時：自由にダンゴムシに触れ合えることを楽しめるよう、机に虫かごを置いたり観察グッズを置く。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・自由に観察を楽しめるように机に置き、環境を整え、触れたり観察出来るように、観察グッズを用意した。

・子どもに分かりやすく、調べた手作り図鑑を子どもの目線に入りやすい位置に貼った。

・ダンゴムシが食べるものを用意した。

4.　探究活動の実践

＜活動内容＞

①ダンゴムシを探し、捕まえてきて飼育を開始する。

②図鑑を見てどちらがオスかメスかを確認しあったり、丸くなる様子足やの数を数えて報告したり、異年齢で観察を楽しんで会話を弾ませている。

③壁面に貼られた図鑑を見て、ダンゴムシの触覚や身体のつくりを知り、より興味関心を持って観察している。

④観察グッズ（迷路）を通して、メスとオスのゴールの速さ比べを楽しんでいる。

⑤毎日のダンゴムシのお世話を喜んで行い、土に水をあげたり、ダンゴムシを調べて落ち葉以外の食事をあげたりしている。

⑥1 匹死んだ際には、なぜ死んでしまったのかを子ども同士で話し合う姿が見られた。

⑦そこから、水のあげすぎに気をつけてお世話をするようになった。

＜活動中の子どもの姿、声、子ども同士の保育者との関わり＞

・他クラスでも同じように生き物を飼育していたが、死んでしまうとみんなで話し合い、土の必要性や「長生きするには葉っぱが必要なのではないか」等の意見があった。

・朝や夕方の観察中に、迷路グッズも用意してみると自分たちでダンゴムシを出し、率先して観察することを楽しんでいた。また、掲示している図鑑を見て足の数や丸くなる理由を知ると、友だち同士で話し合ったり

保育者と会話を弾ませる姿があった。

- 迷路グッズにオスを入れて観察していると、オスが触覚を動かして歩いていることに気づき、「触覚で確認しながら歩いているんじゃない？」「女の子（メス）ならどうなんだろう？」等と不思議に思い、考える姿もあった.
- 土や虫かごに向けて霧吹きをする際に、水をあげすぎてしまい、次の日に３匹中２匹が死んでしまっていた。泣いてしまう子もいたが、次に霧吹きをする際には「あげすぎないようにしないとね」「女の子（メス）がまだいるからね」と今までの飼育方法を振り返り、気をつけながら飼育するようになっていった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

飼育を通してダンゴムシを飼うことの楽しさだけではなく、ダンゴムシが死んでしまった時には泣いてしまうなど命の大切さを知る機会になった。ダンゴムシの手作り図鑑を子どもの目線に入る場所に掲示することで、ダンゴムシの生体や体の作りなどに興味を持つことにも繋がったと感じる。これからも子どもの身近にいる昆虫や生き物を見つけたり、自分で調べたりできるように興味関心が広がるような環境づくりをしていきたい。